

課程 全日制

教科	理科	科目	化学基礎	単位数	2	学年	1	科	全学科
使用教科書		「高等学校 新化学基礎」（第一学習社）							

1. 科目の目標と評価の観点

目標	＜化学基礎＞日常生活や社会生活と関連をはかり物質の変化への関心を高め、観察、実験をおこない、化学的な探求能力と態度を育成する。基本的概念、原理・諸法則を理解させ化学的な見方・考え方を養う。		
評価の観点	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
	＜化学基礎＞ 日常生活や社会生活との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な考え方や、原理・法則を理解している。 実験・観察の基本操作や記録などの技能が身についている。	＜化学基礎＞ 物質とその変化から疑問を持ち、観察・実験を行い、その結果を自分の言葉で表現している。	＜化学基礎＞ 日常生活にある物質の変化に主体的に関わり、自分の考えとあわせて探求しようとしている。

2. 評価方法

評価方法・観察	①	②	③	具体的な項目
定期考査	◎	◎		年間5回 実施
実験レポート	○	◎	○	実験後に提出
小テスト	◎	○		授業時間中に行う
振り返り			◎	自己評価
学習状況			◎	出欠席 授業態度

※表中の◎は観点の中でより重視するところです。

3. 学習にあたっての注意とアドバイス

授業の欠席をしないようにすること。 前向きに授業に取り組むこと。

4. 年間学習計画

		学習の内容	考查範囲	予定時数
一 学 期	4 月	＜化学基礎＞ 物質の構成	中間左記範囲 期末左記範囲	3 0
	5 月	物質の成分と構成元素 原子の構造と元素の周期表		
	6 月	化学結合		
二 学 期	7 月	物質の変化	中間左記範囲 期末左記範囲	4 0
	8 月	物質と化学反応式		
	9 月			
	1 0 月	酸と塩基		
	1 1 月	酸化還元反応		
三 学 期	1 2 月			
	1 月			
	2 月			
	3 月			

合計 70 時間

課程 全日制

教科	理科	科目	物理基礎	単位数	2	学年	2	科	全学科
使用教科書 副教材		「高等学校 科学と人間生活」, 「高等学校新物理基礎」(第一学習社) ネオパルノート 物理基礎(第一学習社)							

1. 科目の目標と評価の観点

目 標	日常生活や社会生活と関連をはかり物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、観察、実験をおこない、物理学的に探求する能力と態度を育てる。基本的概念、原理・諸法則を理解させ科学的な見方・考え方を養う。			
評 価 の 観 点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解
	自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

2. 評価方法

評価方法・観察	①	②	③	④	具体的な項目
定期考査			○	◎	年5回実施
課題の提出	○	◎			授業中の配布プリント、問題集
学習状況の観察	◎				出席状況、授業への取り組み

※表中の◎は観点の中でより重視するところです。

3. 学習にあたっての注意とアドバイス

授業に遅れたり休んだりしないこと。 きちんとノートをとること 居眠り・教科と異なる読書・ゲームなどしないこと。 復習をすること。特に問題演習を行うこと
--

4. 年間学習計画

		学習の内容	考查範囲	予定時数
一 学 期	4月	<物理基礎> I 力と運動 1. 物体の運動 2. 力と運動の法則物質 II エネルギー 1. 仕事と力学的エネルギー 2. 熱とエネルギー	中間左記範囲	30
	5月			
	6月		期末左記範囲	
二 学 期	7月		中間左記範囲	40
	8月			
	9月			
	10月			
	11月	V物理学が拓く世界	期末左記範囲	
三 学 期	12月			
	1月			
	2月			
	3月			

合計 70 時間

課程 全日制

教科	理科	科目	科学と人間生活	単位数	1	学年	1	科	全学科
使用教科書		「高等学校 科学と人間生活」（第一学習社）							

1. 科目の目標と評価の観点

目標	<科学と人間生活> 自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりの理解を深める。観察・実験の技術を身に付け人間生活を科学的に探究できる力を養う。（1年） 科学と人間生活とのかかわり、自然の探究・解明や科学の発展の過程について、観察、実験などを通して理解し、科学に対する興味・関心を高めるとともに、科学的な見方や考え方を養う。（2年）		
評価の観点	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
	自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりを理解している。 実験・観察の基本操作や記録などの技能が身についている。	自然の事物・現象から問題を見だし、実験・観察から得られた結果を自分の言葉で表現している。	自然の事物・現象に進んで関わり、自分の考えを振り返り、探究しようとしている。

2. 評価方法

評価方法・観察	①	②	③	具体的な項目
定期考査	◎	◎		年間5回 実施
実験レポート	○	◎	○	実験後に提出
小テスト	◎	○		授業時間中に行う
振り返り			◎	自己評価
学習状況			◎	出欠席 授業態度

※表中の◎は観点の中でより重視するところです。

3. 学習にあたっての注意とアドバイス

授業の欠席をしないようにすること。 前向きに授業に取り組むこと。

4. 年間学習計画

		学習の内容	考查範囲	予定時数
一 学 期	4月			
	5月			
	6月			
	7月			
二 学 期	8月			
	9月			
	10月			
	11月			
三 学 期	12月	科学技術の発展 情報技術		35
	1月	エネルギー資源の利用、医療技術、科学技術の発展 人間生活の中の科学		
	2月	物質の科学 材料とその利用、衣料と食品		
	3月	熱や光の科学 熱の性質とその利用、光の性質とその利用		
			期末左記範囲	

合計 35 時間

課程 全日制

教科	理科	科目	科学と人間生活	単位数	1	学年	2	科	全学科
使用教科書		「高等学校 科学と人間生活」（第一学習社）							

1. 科目の目標と評価の観点

目標	<科学と人間生活> 自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりの理解を深める。観察・実験の技術を身に付け人間生活を科学的に探究できる力を養う。（1年） 科学と人間生活とのかかわり、自然の探究・解明や科学の発展の過程について、観察、実験などを通して理解し、科学に対する興味・関心を高めるとともに、科学的な見方や考え方を養う。（2年）		
評価の観点	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
	自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりを理解している。 実験・観察の基本操作や記録などの技能が身についている。	自然の事物・現象から問題を見だし、実験・観察から得られた結果を自分の言葉で表現している。	自然の事物・現象に進んで関わり、自分の考えを振り返り、探究しようとしている。

2. 評価方法

評価方法・観察	①	②	③	具体的な項目
定期考査	◎	◎		年間5回 実施
実験レポート	○	◎	○	実験後に提出
小テスト	◎	○		授業時間中に行う
振り返り			◎	自己評価
学習状況			◎	出欠席 授業態度

※表中の◎は観点の中でより重視するところです。

3. 学習にあたっての注意とアドバイス

授業の欠席をしないようにすること。 前向きに授業に取り組むこと。

4. 年間学習計画

		学習の内容	考查範囲	予定時数
一 学 期	4月			
	5月			
	6月			
	7月			
二 学 期	8月			
	9月			
	10月			
	11月			
三 学 期	12月	I 生命の科学 1. 生物と光		35
	1月	2. 微生物とその応用 3. 人間生活の中の科学		
	2月	II 地球や宇宙の科学 1. 身近な自然景観と自然災害		
	3月	2. 身近な天体と太陽系における地球 III これからの科学と人間生活		
			期末左記範囲	

合計 35 時間

課程 全日制

教科	理科	科目	物理	単位数	3	学年	3	科	全学科
使用教科書 副教材		「高等学校 物理」（第一学習社） リードLight ノート 物理（数研出版）							

1. 科目の目標と評価の観点

目標	物理的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解
	自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

2. 評価方法

評価方法・観察	①	②	③	④	具体的な項目
定期考査		◎		◎	年5回
小テスト	○	○		◎	小テスト（知識の確認・計算練習）
提出物	◎		○		ノート・授業プリント・実験報告書
学習状況の観察	◎	—	—	—	自己評価を含む

※表中の◎は観点の中でより重視するところです。

3. 学習にあたっての注意とアドバイス

・授業に遅れたり休んだりしないこと。 ・きちんとノートをとり、居眠りなどをしないこと。 ・復習をすること。特に問題演習に積極的に取り組むこと。

4. 年間学習計画

		学習の内容	考查範囲	予定 時数
一 学 期	4月	I 運動とエネルギー	中間左記範囲 期末左記範囲	33
	5月	1. 平面運動と剛体のつりあい ①平面運動 ②放物運動 ③剛体にはたらく力		
	6月	2. 運動量の保存 ①運動量と力積 ②運動量保存の法則 ③反発係数		
	7月	3. 円運動と単振動 ①円運動 ②慣性力と遠心力 ③単振動 ④万有引力による運動 4. 気体の性質と分子の運動		
二 学 期	8月	①気体の法則 ②気体の分子運動 ③気体の内部エネルギーと仕事	実力テスト 既習範囲	50
	9月	II 波動	中間左記範囲	
	10月	1. 波の伝わり方 ①波の性質 ②波の干渉・反射・屈折・回折		
	11月	2. 音波 ①音の伝わり方 ②ドップラー効果 3. 光波 ①光の性質 ②レンズと鏡 ③光の回折と干渉	期末左記範囲	
三 学 期	12月	III 電気と磁気	期末左記範囲	22
	1月	1. 電場と電位 ①電場 ②電位 ③コンデンサー 2. 電流 ①電流と抵抗 ②直流回路 ③半導体		
	2月	3. 電流と磁場 ①磁場 ②電流が磁場から受ける力 ③ローレンツ力 4. 電磁誘導と交流 ①電磁誘導 ②交流 ③電磁波		
	3月	IV 原子 1. 電子と光 ①電子 ②光の粒子性 ③X線 ④粒子の波動性 2. 原子と原子核 ①原子の構造 ②原子核と放射線 ③核反応とエネルギー ④素粒子と宇宙 終章 物理学が築く未来		

合計 105 時間

課程 全日制

教科	理科	科目	化学	単位数	3	学年	3	科	全学科
使用教科書 副教材		改訂 新編 化学（東京書籍） ニューサポート 改訂 新編 化学（東京書籍）							

1. 科目の目標と評価の観点

目標	①化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てる。 ②化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解
	自然の事物・現象に関心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事物を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともにそれらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

2. 評価方法

評価方法・観察	①	②	③	④	具体的な項目
定期考査		◎		◎	年5回
小テスト	○	○		◎	小テスト（知識の確認・計算練習）
提出物	◎		○		ノート・授業プリント・課題帳・実験報告書
学習状況の観察	◎	—	—	—	自己評価を含む

※表中の◎は観点の中でより重視するところです。

3. 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・授業に遅れたり休んだりしないこと。
- ・問題演習に積極的に取り組むこと。
- ・復習をすること。特に問題演習に積極的に取り組むこと。

4. 年間学習計画

		学習の内容	考查範囲	予定 時数
一 学 期	4月	1編 物質の状態 1章 物質の状態	中間左記範囲	
	5月	2章 気体の性質		
		3章 溶液の性質		
		4章 化学結合と固体の構造		
	6月	2編 化学反応とエネルギー 1章 化学反応と熱・光	期末左記範囲	33
		2章 電池と電気分解		
二 学 期	7月	3編 化学反応の速さと平衡 1章 化学反応の速さ	中間左記範囲	
	8月	2章 化学平衡		
		3章 水溶液中の化学平衡		
	9月	4編 無機物質 1章 周期表と元素		
	10月	2章 非金属元素の単体と化合物		
		3章 典型元素の単体と化合物		
		4章 遷移元素の単体と化合物		
		5章 無機物質と人間生活		
	11月	5編 有機化合物 1章 有機化合物の特徴と構造	期末左記範囲	50
		2章 炭化水素		
三 学 期	12月	3章 アルコールと関連化合物	期末左記範囲	
	1月	4章 芳香族化合物		
		5章 有機化合物と人間生活		
		6編 高分子化合物 1章 天然高分子化合物		
		2章 合成高分子化合物		
		3章 高分子化合物と人間生活		

合計 105 時間

課程 全日制

教科	理科	科目	生物基礎	単位数	2	学年	3	科	全学科
使用教科書 副教材	「高等学校 改訂 新生物基礎」（第一学習社）， 改訂 ネオパルノート 生物基礎（第一学習社）								

1. 科目の目標と評価の観点

目 標	・生物への関心を高め、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させる。 ・細胞の働きおよびDNAの構造と機能を理解させ、生物の共通性と多様性の視点を身に付けさせる。 ・生物には体内環境を維持する仕組みがあることを理解させ、健康との関係について認識させる。 ・生物の多様性と生態系について理解し、その保全の重要性について認識させる。			
評 価 の 観 点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解
	自然の事物・現象に関心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事物を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともにそれらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

2. 評価方法

評価方法・観察	①	②	③	④	具体的な項目
定期考査		◎		◎	年3回
提出物	◎		○		授業プリント・課題帳・実験報告書
学習状況の観察	◎	—	—	—	自己評価を含む

※表中の◎は観点の中でより重視するところです。

3. 学習にあたっての注意とアドバイス

・授業に遅れたり、休んだりしないこと。 ・きちんとノートをとること ・授業は受け身でなく、能動的に受けること
--

4. 年間学習計画

		学習の内容	考查範囲	予定時数
一 学 期	4月 5月 6月	生物の特徴 生物にみられる多様性と共通性 細胞とエネルギー	期末左記範囲	20
二 学 期	7月 8月 9月 10月 11月	遺伝子とその働き 遺伝子とDNA 遺伝子の働き 体内環境と恒常性 生物と体内環境 体内環境を維持するしくみ 生体防御	期末左記範囲	30
三 学 期	12月 1月 2月 3月	植生の多様性と分布 植生と遷移 気候とバイオーム 生態系とその保全 生態系と物質循環 生態系のバランスと保全	期末左記範囲	20

合計 70 時間